ほぼ週刊コラム　Partnership論　その１２３

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』の振り返りと準備**

**第五回勉強会（**[**年表**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2014/20141003%20W113%20economic%20substance%20without%20profit/shiryou/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev8.ppt)**項目２：経済的実体（economic substance））の振り返り（２）：**

**世界は「経済」を全く違う次元で論じているというのに、日本はアベノミクスの是非を問う選挙だという。不勉強のまま「経済」を論じても、議論は空転するばかりだろうに…。**

　2014.12.12　rev.1　齋藤旬

**今週は、あるコミュニティー機関誌のクリスマス特集号向けに書いた文章をお見せする。**それは、今年1月のダボス会議でのローマ教皇フランシスコによる開幕スピーチの和訳。

何故これを本コラムでもお見せするかというと、日本はアベノミクスの是非を問う衆院選挙が明後日に迫っているからだ。付け焼き刃だが、お金とか利益とかとは全く違う次元で「経済」を論じている世界を、少しでも多くの日本人に感じてもらおうと思った次第。

世界が論ずる経済の真の目的、あるいは、経済的実体とは何なのか、つかんで頂きたい。

[2014年ダボス会議への教皇フランシスコからのメッセージ](http://www.vatican.va/holy_father/francesco/messages/pont-messages/2014/documents/papa-francesco_20140117_messaggio-wef-davos_en.html)　英文

[www.weforum.org/sessions/summary/welcoming-message-executive-chairman](http://www.weforum.org/sessions/summary/welcoming-message-executive-chairman)　ビデオ

2014.12.XX 　齋藤旬

今年１月、スイスで開催された世界経済フォーラム（通称ダボス会議）は、極めて異例な幕開けとなりました。昨年11月末に[*Evangelii Gaudium*](http://www.vatican.va/holy_father/francesco/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium_en.html)を発表した教皇フランシスコに開会スピーチをしてもらいたいと、会議議長クラウス・シュワブが依頼したのです。急なことで教皇自らの出席は叶いませんでしたが、タークソン枢機卿がスピーチを代読して、この2500人の世界経済リーダー達が一堂に会す経済会議年次総会が始まりました。

　[*Evangelii Gaudium*](http://www.vatican.va/holy_father/francesco/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium_en.html)は、一言で言えば「経済を根底から作り直そう」との緊急勧告です。即ち、ここ30年間で急激に広まったマネー中心主義と奔放な市場経済が、許しがたいinequality社会を招いたと考え、この様な経済を改める為の行動を、専門家のみならず全ての人が直ちに開始する様に求めた勧告です。

一方、今年のダボス会議は、「先の経済危機の始末に手間取るのでなく、根本的な経済改革に早く着手しよう」がテーマでしたので、議長シュワブは「是非皮切りに」と考えたのです。ねらいはピタリ。例年のお祭りムードが一掃され、ピリッとした会議となりました。

この開会スピーチを和訳してみました。クリスマスには不向きな内容かもしれませんが、私達は本当に一刻の猶予もならない緊急事態のただ中に居ます。お読み頂けると幸いです。

世界経済フォーラム議長　シュワブ教授　殿

教皇フランシスコ

御招待頂き有り難うございます。例年通り１月末にダボスで開催される世界経済フォーラムのこの年次総会で、お話しするよう招待を頂き大変感謝しています。過去数年、世界を脅かしている経済危機の原因について考察を深める良い機会として、貴会議を信頼し、私の考えを幾つか述べたいと思います。これが、貴会議の大切なお仕事の一助となり、世界経済危機の原因究明に関する議論を内容の濃いものにしてくれることを願っております。

私達の時代、それは特記すべき変化が次々と起こり様々な分野に大きな進歩が訪れる時代です。それはまた、人類の歴史が重要な転機を迎えている時でもあります。実の所、私が[*Evangelii Gaudium*](http://www.vatican.va/holy_father/francesco/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium_en.html) 第52段落で述べたように、教育、情報通信、ヘルス・ケア等の分野に生活の質の向上を実現する、大きな歩みを残していく時代だとして、今の時代は、賛辞に値するでしょう。さらに言えばその他様々な分野においても、近代ビジネス活動が果たした役割が、大きな変化をもたらしてくれたのだと、その役割の重要さを認識すべきです。近代ビジネス活動が、人類知性という無尽蔵の資源を、喚起し発展させてくれたのです。が、とはいえ、それが成し遂げた成功、即ち、困窮者を大幅に減らしたという事実も含めて近代ビジネス活動が成し遂げた成功が、社会的排除の問題を蔓延させたのも事実です。そう、確かに、男も女も人類の大多数が今なお日々不安定な暮らしを続けており、このことが、私達がいま目の当たりにしている重大な結果を招いているのです。

貴会議の文脈に即して、私は次のことを強調します。即ち、政治経済の様々なセクターにおいて、包摂的アプローチを振興させることの重要さを強調したいと思います。つまり、「各々のhuman personの尊厳」と「共通善」を考慮に入れた包摂的アプローチのことです。これらを元にして、全ての政治的経済的決定が為されるべきです。しかし残念ながらしばしば、これらは付足し的にさえも扱われていないのが現実である様に見受けられます。本来、政治経済セクターで仕事をする人達は、他者に対して厳密な応答責任を持ちます。特に、最もはかなく弱く傷つきやすい者たちに対して応答責任を持ちます。耐え難いのは、十分な食料があるにもかかわらず、飢えで死ぬ人が毎日何千人もいるという現実です。餓死者が出る中で食料がただ捨てられているのです。同様に悲惨なのは、大量難民が最低限の尊厳ある生活環境を求めているという、人間なら心動かされないはずはない状況において、もてなしを受けられないどころか、難民達が流浪の果てにただ死んでいくという悲劇が繰り返されていることです。私のこの様な表現は、ドギツク押しつけがましいかもしれません。しかし、この様な餓死も難民も否定できない現実であり、貴会議総員に「状況打開せよ」と突きつけられ、その能力が問われている問題なのです。実際、今なお悲惨な困窮のただ中にいる者たちに、その生活を改善しようとinnovativeなことを始める姿勢を表明する者達がいると示しただけでも、即ち、その才能と専門性を使うと立ち上がる者達がいるというだけでも、そのスキルが為し得る以上のことを、これら悲惨な現場にもたらすことができるのです。

ですから必要なのは、如何なる信条やイデオロギーを持つ人も、自らの応答責任感を、深く広く作り変えることなのです。私が[*Evangelii Gaudium*](http://www.vatican.va/holy_father/francesco/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium_en.html) 第203段落で述べたように、ビジネスは確かに、一つの召命（a vocation）です。一つの高貴な召命です。しかしそれは、そのビジネスに従事する者が、人生のより大きな意味合いによるchallengeを受けていると自覚している場合にのみ言えることです。この自覚を持つ者なら男でも女でも、真に共通善の為に仕事に就くことができます。そして、この世の財を誰にでも使えるようにできるはずです。ただ、それでもやはり、この様なgrowth of equality（equalityを保った成長）を実現するには、単なる経済成長 --- もちろんこれが前提となりますが --- 以上の何かが必要となります。第一に必要なのは「それぞれのpersonが持つ特異的で超越的なvision」（ベネディクト16世の[*Caritas in Veritate*](http://www.vatican.va/holy_father/benedict_xvi/encyclicals/documents/hf_ben-xvi_enc_20090629_caritas-in-veritate_en.html)『真理に根ざした愛』第11段落）です。なぜなら、「その様に永遠に保つべき観点が無ければ、この世におけるヒトの進歩は、息継ぎができないほど急かされてしまう」（同上）からです。equalityを保った成長のためにはまだほかにも、意思決定と富の分配のより良いメカニズムとプロセス、雇用源の創出、そして何より困窮者向けに単なる福祉精神を超えて考案された総合的な振興策が必要となります。

私は確信しています。超越存在に対してこの様に心を開けば、必ず、政治とビジネスの新たな精神性が形成される、と。真に人間的・倫理的アプローチを水平線にしっかりと据えて全ての経済的・金融的な活動を行うのに必要な、指針が与えられると確信しています。例えば、国際ビジネスのcommunityは、男でも女でも本来ヒトが持つとてもpersona的な正直さと誠実さを、もっとアテにしてよいのではないでしょうか。persona的な人は、高次の理想によって促され導かれています。即ち、公平公正、寛大高潔、そして、人間家族の本当の発展への関心という高次の理想を持っています。ですから貴会議の皆様に、私は強く要請します。この様な素晴らしい人的資源・moral資源をもっと活用してください。そして、この私からのchallengeを、決断と広い視野をもって、受けて立ってください。もちろん私は、サイエンスの特異性も専門家からの要求も、全ての文脈において軽視したり無視したりすることはありません。私は皆さんにお願いします。humanityとは、富に仕えてもらうものであり、富に支配されるものではない。このことを確実なものとするようお願いします。

親愛なる議長、そして友である皆さん、貴方方が私のこの短いメッセージから、あるサインを感じ取って頂けたら幸いです。即ち、私の司牧的懸念と、貴方方の活動がより一層高潔で実りのあるものになる様に建設的貢献を惜しまないという気持であることをくみ取っていただけたら幸いです。改めて、この会議の成功をお祈りします。貴方方、更には、このフォーラムの参加者に神の祝福があるようにと祝別いたします。もちろん、貴方方のご家族とお仕事にも祝別をお与えします。

*From the Vatican, 17 January 2014*